

身近な地域素材の教材化とその活用
 — 「土は まほうつかい」の単元の学習指導を通して —

目 次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究の仮説	42
III	研究の全体構造図	42
IV	研究の内容	43
1	生活科目標の視点	43
2	内容構成の基本的な考え方	44
3	素材研究	44
(1)	学校、地域素材の教材化	44
(2)	素材の教材化の視点	45
(3)	地域素材にはどのようなものがあるか	45
(4)	地域素材の活用法	46
(5)	生活マップをどう活用するか	46
(6)	生活暦をどう活用するか	46
4	時間配当や授業編成の弾力化及び他教科とのかかわり	48
5	他学年とのかかわり	48
6	幼稚園との連携の仕方	49
7	実態調査及び考察	50
8	生活科単元配列表(1・2年)	52
9	年間指導(活動)計画	53
V	授業実践	55
1	単元名	55
2	単元目標	55
3	単元について	55
4	教材の選定にあたって	55
5	指導(活動)計画	56
6	指導要領の視点	56
7	単元の指導(活動)計画と評価計画	57
8	本時の展開	59
9	授業を終えて	61
VI	まとめと今後の課題	61
	〈参考文献〉	62

宜野湾市立嘉数小学校

平 良 俊 子

身近な地域素材の教材化とその活用 — 「土は まほうつかい」の単元の学習指導を通して —

宜野湾市立嘉数小学校教諭 平 良 俊 子

I テーマ設定の理由

学習指導要領の改訂で、これからの社会に生きていくために必要な資質を養うという視点に立ち「豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を図ること」が重視されている。特に、小学校低学年では、新設教科である生活科が正式に位置付けられ、平成4年度から実施の運びとなった。

生活科が新設された背景として、小学校低学年においては、学習や生活の基礎的な能力や態度の育成向上をめざし、直接的体験を通じた活動が重要視されたからにはほかならない。生活科設定の趣旨では、「直接的体験を重視した学習活動を展開し、さらに児童をとり巻く社会環境や自然環境を自らもそれを構成するものとして一体的にとらえる」ことが重視されている。また、ねらいでも「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせる」ことが必要であるとされている。これらのことから生活科では、具体的な事柄によって学ぶという直接的体験学習を重視している。具体的な事柄、つまり、学校、家庭及び近隣の地域の素材をどのように教材化するかそして活用するか、そこが児童の直接体験の質を左右する鍵になる。本校（嘉数小学校）の教育目標は、体、徳、知の調和のとれた「心豊かで物事を正しく判断し、たくましい実践力を身につけた心身ともに健全な児童の育成」をめざしている。ところで、児童の実態をみると明るく活動的で、何事にも興味を示し情報にも敏感であるが、直接体験などは不足がちであり、持続力や集中力も不足しているし、基本的な習慣や技能も十分でない。また、素直で、言われたことや与えられたことはできる反面、自らの判断に乏しく指示待ちの子が多い。これらの実態から、生活科の指導に当たって多様な素材を教材化しなければならない。

ところで、これまでの生活科の授業を振り返ってみると、先進校の資料等を参考にしながら年間指導計画を作成し昨年一年間を通して実践してきた。その中で「地域に適した題材」と言いがたい事柄であったり、予想した時数では消化できない内容であったり、また、合科指導の際の他教科との噛み合わせがうまくいかない（教材研究不足）、資料収集が満足にできなかった・・・等、また、幼稚園との連携及び中学年への橋渡し（課題である）があつて、具体的な事柄による体験活動が十分でなかったと反省している。そこで、学校や地域の身近な社会環境や自然環境と児童がどうかかわっているかをとらえ直し、教材開発を行い、児童の活動を通してさらに改善する必要がある。

そこで、研究の視点として

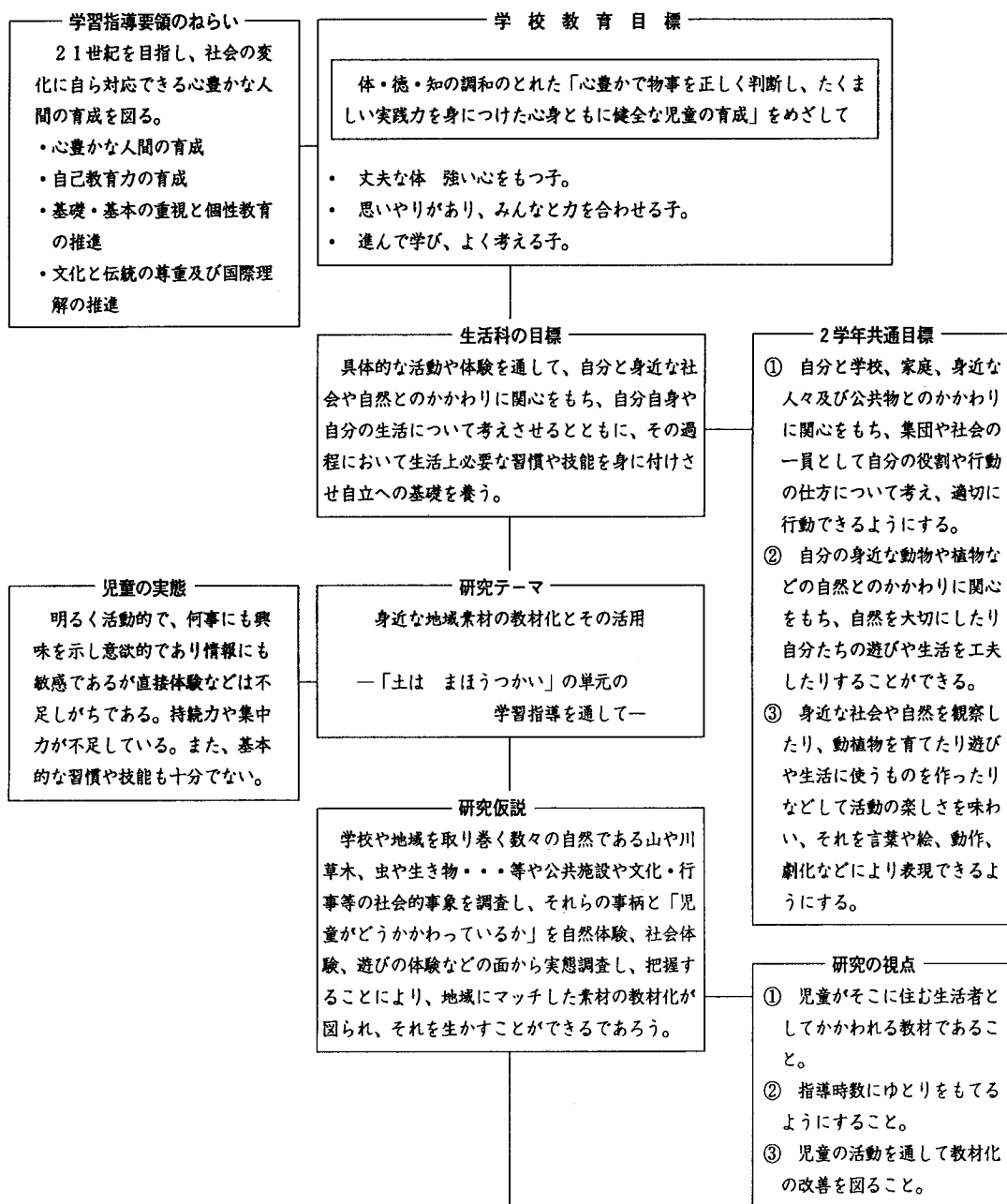
- (1) 児童がそこに住む生活者としてかかわれる教材であること。
- (2) 指導時数にゆとりをもてるようにすること。
- (3) 児童の活動を通して教材化の改善を図ること。

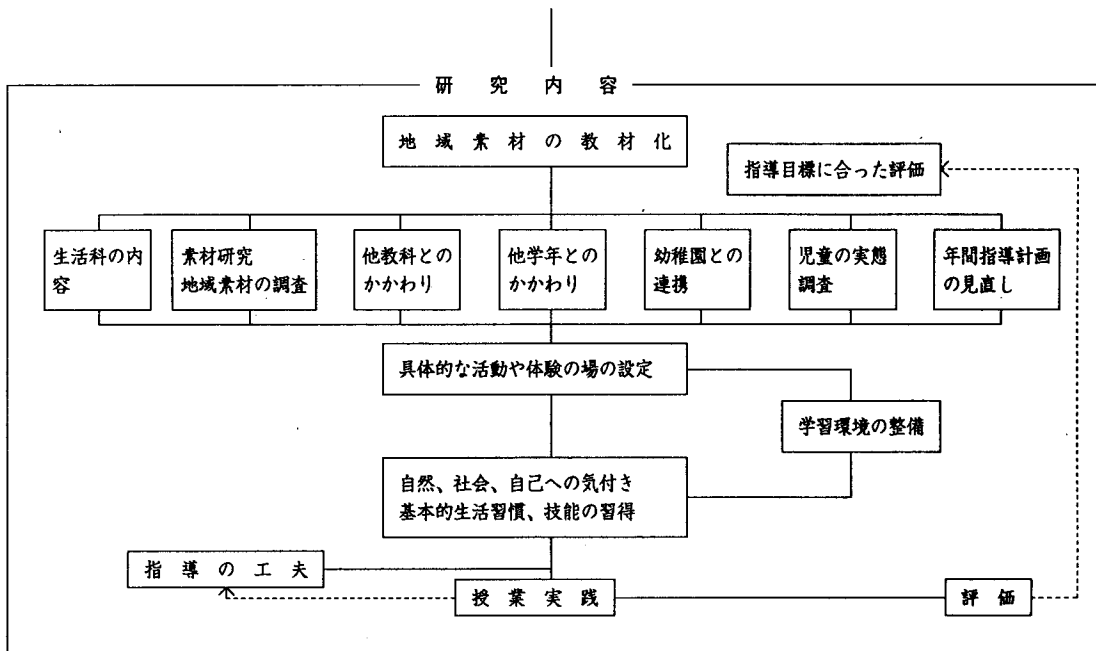
以上の3点に留意しながら追究することによって、地域にマッチした教材開発ができ、具体的な活動や体験を通して「自立への基礎を培う」にせまることができるのではないかと考え、テーマを設定した。

II 研究の仮説

学校や地域を取り巻く数々の自然である山や川、草木、虫や生きもの・・・等や公共施設や文化行事・・・等の社会的事象を調査し、それらの事柄と「児童がどうかかわっているか」を、自然体験、社会体験、遊びの体験などの面から実態調査し、把握することにより地域にマッチした素材の教材化が図られ、それを生かすことができるであろう。

III 研究の全体構造図





Ⅳ 研究の内容

1 生活科目標の視点

生活科は学習したことが生きる力となるような、また、人間としての自立の基礎となるような教科である。したがって、生活科は子どもの生活現実から出発し、その生活現実を「学ぶ」ことの本質に立ち返って、「生活する＝活動する＝学習する」の成立をねらっていると考えられる。

したがって、生活科の学習は子どもとその生活現実とのかかわりの中で展開されなければならない。

学習指導要領に示された生活科の目標の視点として

- (1) 具体的な活動や体験を通すこと。
 - ・子どものすべての働き（体も、頭も、心も）を総動員して多様な学習活動を展開する教科である。
- (2) 自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心をもつこと。
 - ・子どもが自らかかわること、かかわりに関心をもつことは、生活することであり、主体的にかかわる「遊び」は、社会や自然へのかかわり方として最も開放的であり、集中的であり挑戦的（チャレンジ性）である。
- (3) 自分自身の生活について考えること。
 - ・自分自身について、また、自分の生活について考えたり気付いたりできる知識は、社会や自然との具体的なかかわりの中で、子どもの体験的な活動を通して、主体的に成立するものである。
- (4) 生活上必要な習慣や技能を身につけること。
 - ・習慣や技能は、子どもが生活する中で主体的に学び取っていくことが大切である。またそれは、子どもが生きる（生活する）意欲や自信と強くかかわってくるのである。

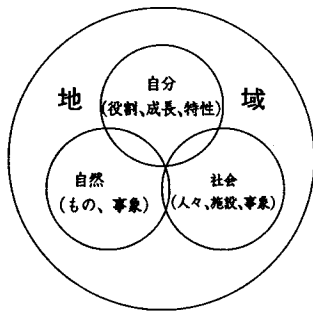
(5) 自立への基礎を養うこと。

生活科の究極の目標は、人間としての自立の基礎であり、子どもとしての生活の自立であり、学習上の自立であり、精神的な自立であるための内容と考えられる。そのために、体験的な活動を通して、学習するのであり、身近な社会や自然とのかかわりで学習するのであり、自分自身への気付きや自分の生活を考える学習を進めるのである。

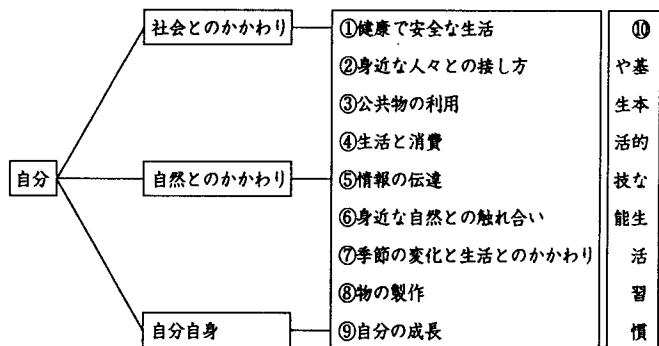
2 内容構成の基本的な考え方

教育課程審議会答申は「生活科の内容構成の考え方」について、「生活科のねらいを達成するために、内容選択の基本的な視点は、自分と社会（人々、物）とのかかわり、自分と自然とのかかわり、自分自身のこととする」と示している。つまり、生活科の内容の範囲は、地域であり、その自然や社会が学習の対象となるが、学習（活動）する子ども自身のことにも内容に含まれる。「子どもがそのかかわりに関心をもつ範囲＝具体的な活動の範囲」

① 生活科の内容構成の基本的な考え方



② 生活科の内容選択の視点



3 素材研究

(1) 学校、地域素材の教材化

直接的体験を重視する生活科は、学校、家庭及び近隣の地域を学習の範囲とする教科である。したがって、学校や地域の自然環境及び社会的環境の実態を十分に把握し、その中にある素材（具体的な事柄）をどのように教材化するか、教材として選定した場合、どこでどのような体験が生まれ、その体験によってどのような気付きや工夫が生み出されるのか等について検討し、指導計画の作成や単元の構成に生かすことが大切である。また、児童の学習圏内には多様な素材が数多く存在しているが、それらの多くはそのままの姿で教材として利用できるわけではない。したがって、それらの素材の中に生活科の趣旨やねらいに基づく指導に適し内容が包含されているか、児童の発達段階や既存の経験などから見て、十分な教育効果が期待できるかどうかの吟味を経て、はじめて教材化の対象と成り得る。そして、それが更に教育の内容として意図的に構成されたとき、はじめて教材化されたといえる。

(2) 素材の教材化の視点

児童が自分とのかかわりで主体的に活動できるようにするには、学習素材を児童の身近な環境からどう見出し、教材化するかが決め手になる。そこで、地域素材の視点として

- ① 地域の社会や自然を生かしたもの。
- ② 自分とのかかわりが具体的に把握できるもの。
- ③ 児童の興味、関心をひくことができるもの。
- ④ 児童の活動を継続的、発展的に展開させられるもの。
- ⑤ 児童がやりおせ、成就感を味わえるもの。

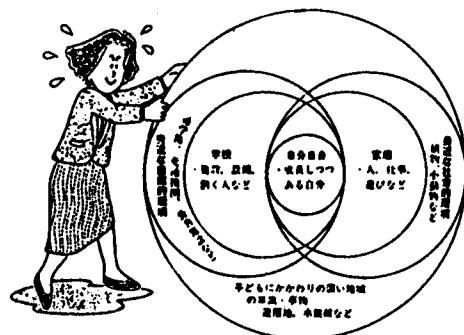
以上の視点を基に素材の教材化を図ることが必要であると考えられる。

(3) 地域素材にはどのようなものがあるか

地域の素材は教材としての価値は、ほとんど未知数であり、その素材が価値ある教材になり得るかどうかは、その教師の素材としての価値を見抜く確かな目に期することになる。

そこで、教材としての地域の素材を取り上げてみると

●生活科の地域教材



① 学校

校舎、校庭、遊具、先生、学校で働く人、樹木、草花などの植物、飼育している生きもの等。

② 家庭

家庭の人、家族の仕事、家族の生活や楽しみ、家庭にあるもの等。

③ 身近にある社会環境

通学路(危険な場所、信号、歩道橋、横断歩道)、交通機関(バス、停留所等)

公共施設(公園、運動施設、児童館、公民館、図書館、郵便局、農協、交番、等)、スーパーマーケット、商店街、場所(山、川、森、林、空き地、田、畑等)

人(近所の人、店で働く人、乗り物で働く人、田や畑で働く人、郵便局の人、地域の様子に詳しい人、伝承遊びを知っている人等)、季節や地域の行事(清明祭、浜下り、子どもの日等)。

④ 身近な自然環境

植物(樹木、草花、雑草、野菜、果物、木の葉、木の実など)。

小動物(ザリガニ、オタマジャクシ、カエル、トンボ、セミ、バッタ、チョウ、アリ、カブトムシ、カマキリ、カタツムリ、ウサギ、ニワトリ、小鳥など)

⑤ 自分自身のこと

1年間の出来事、自分で出来るようになったこと、1年間の自分の役割の変化、誕生から現在までの自分の生活や成長など。

⑥ 子どもにかかわりの深い地域の事象・遊園地・水族館等。

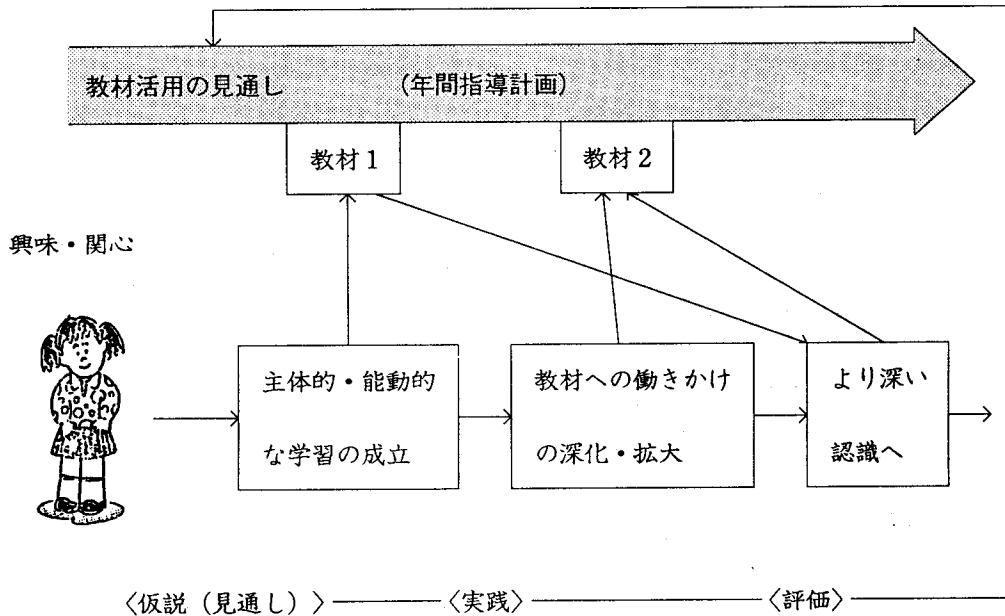
以上のような例が考えられる。

(4) 地域素材の活用法

開発された教材を授業の中でどう活用していったらよいか、教材活用の見通しを立てるためには、年間指導計画の中に、どこで、何を、どのように取り扱うか、明確にしておくことが大切である。また、教師が予想を立てて働きかけても、思いがけない反応や活動を示すことがあったりする。そこで、活用法として、

仮説 → 実践 → 評価 → 仮説修正 のサイクルを大切にすることによって、より確かなものになってくる。

●確かな教材の活用方



(5) 生活マップをどう活用するか

1年間の学習の見通しを立てるうえで、生活マップは有効な働きをする。そこで、どんな植物や虫が見られるか、どんな木の実や落ち葉が見られるかなど地域素材の基礎的な資料として活用することができる。それから、単元展開案に基づいて実際に本時の細案を作り、授業を展開する際にも、それから、現地の状況に応じた指導をしたり、気候や季節の変化に応じて、適宜学習素材を変更しなければならない時にも有効な情報源として活用することが大切である。

(6) 生活暦をどう活用するか

生活暦は年間の学習素材一覧表の役割を果たしていて基礎的資料である。年間指導計画を最適の時期に、最適の学習教材を取り上げて学習活動を構成することを目指して編成するために、いつ、どんな学習素材が、どこに、どのように現われるかなど基本的な見通しを立てる際に有効に生かすことが大切である。

生活マップ①

1 校庭のおもな樹木と教材との関連

樹木名	おもな特長	活用例
1 ガジュマル	・常緑の高木で枝からは、無数の気根をたらす。 ・果実はイチジク状で2個ずつつく。 ・モリアオガエルがよく登る。	・葉で草笛、帽子作り。・実は食べられる。 ・木登りやターザンごっこ。・日陰をつくる。 ・キジムナーの好む木と言われる。
2 ホルトノキ	・9月～11月に実がつく。 ・緑色の実からブルーの実に変わる。 ・部分紅葉する。・セミが好む。	・青い実は木の实遊びに使える。
3 ナンキンハゼ	・7月～8月に花が咲く。・9月～10月に実がつく。 ・紅葉し完全に落葉する。	・木の实遊びができる。 ・紅葉の観察に適している。
4 イスノキ	・花は紅褐色小形で1～2月に花が咲く。果実はさく果で広卵形をなし木質で硬い。9～11月に熟し中に2個の黒色で滑沢の種子がある。	・実で音の出るおもちゃ(マラカスのような)がつくれる。
5 クロトン	・葉の形は楕円形で、らせん状にねじれたもの、葉の種脈が外まで延長しさらに葉をつける飛葉などさまざまな形がある。	・インディアンごっこや木の葉遊びや造形活動に利用できる。
6 オオバギ	・葉は太陽にあたるようにのび楕円形。花は3～4月、実は6月	・日陰樹としてよい。
7 シマグワ	・花は3月、実は4月に熟する。・雌雄異株。 ・暴風によって落葉するが直ちに開花結実する。	・実は食べられる。・葉は養蚕用、食用(芽)に利用。
8 サルスベリ	・幹がすべすべしている。・7～8月に花が咲く。	・花がきれい。・実がぶどうのようにたれさがる。ステッキに利用。
9 ブソウゲ	・1年中花が咲く。	・ハワイアン、レイに利用。
10 ピロウ	・高木。・種子は白色で球形。 ・実は楕円形で9～11月に碧黒に熟する。	・葉はクバ扇やクバ笠などに利用。 ・葉柄は舟のおもちゃ。・ムーチーの包み。
11 リュウキュウコクタン	・材は黒檀の一種(床柱、家具) ・三味線のおとしとして重宝。	・実がうれると美しい色になり食べられる。 ・実の色の変化(黄→赤→黒紫)。
12 サクラ	・2月に花が咲く。 ・梅雨明け後急に暑くなる頃、紅葉がはじまる。	・花の観察。・虫くい観察をするのもよい。 ・サクラランボ。
13 モモタマナ	・3～4月にかけて新芽が出る。 ・7～10月に実ができる。・11月頃から紅葉と落葉。	・葉でおめんづくり。・紅葉がきれい。 ・青い実で動物やペンダントづくり。
14 センダン	・5～7月ごろうす紫の花を咲かせる。 ・8～11月に実がつく。・完全に落葉。	・セミが多く集まる。 ・青い木の実に木の实遊びができる。
15 ゲットウ	・鑑賞用、薬用、食物を包む。・5月花の香りが豊か。 ・花から実までの変化が著しい。	・カーサームーチーの材料。 ・継続観察に適する。
16 デイゴ	・5月に真紅の花を咲かせる。・伝統工芸の材料(漆器) ・挿し木で繁殖し、成長もはやい。	・花の観察。 ・材は漆器の素材。

2 校庭の雑草 ・()は方言名

雑草名	特長	雑草名	特長
1 アキノノゲシ(インデラ)	・茎を切ると白い乳液が出る。ウサギの餌にもナリタスはこの仲間である。	10 ギョウギシバ(アシジラー)	・茎は地面を這うようにして広がり、数メートルにのびるものもある。
2 ウシハコベ	・普通のハコベより大型という意味から、「ウシハコベ」と名付けられた。 ・ウサギなどが好んで食べる。	11 シマキツネノボタン(ハチグミグラー)	・実は丸く、いがりのような形をしている。
3 ウスベニニガナ	・紅色または、紫色の花を咲かせる。「ウスベニニガナ」はうすい紅色の花を咲かせ、苦菜に似た物という意味で名付けられている。	12 シロツメグサ(クローバー)	・葉は三葉のクローバーと言われるように小さな葉が3つついていて、葉の表には白い模様がある。花をつないでいくと首飾りができる。
4 エノコログサ(ムシグラー)	・穂の形が子犬のしっぽに似ているところから犬の子(えのこ)となったと言われる。 ・服によくつく。	13 セイヨウタンポポ	・ヨーロッパ生まれのタンポポで、沖縄にある三種類のタンポポのうち、最もよく見られる種類である。
5 オオアレチノギク	・冬、下葉がロゼット状に残る。	14 タカサブロウ	・湿り気の多い場所によく見かける。
6 オオバコ(フィレファグサ)	・昔から、薬草として広く利用されてきた。葉を使って、すもうとり遊びもできる。	15 タチアワユキセンダングサ	・北アメリカ原産の雑草。種は動物の体毛、人間の服などによくつく。
7 オニタビラコ(トウスイヒサ)	・菊の花に似た黄色の花を咲かせる。ヤギやウサギ、ニワトリなどの餌として利用される。	16 タツノツメガヤ(カービドフサ)	・穂をみると、その形が鳥や動物の足の形に似ている。穂の形が竜の爪に似ていることから、その名がついた。
8 オヒシバ(チカラグサ)	・引っ張っても簡単にはちぎれたり、抜けたりしないことからチカラグサとも呼ばれる。	17 チガヤ(マカヤ)	・昔は、屋根をふくカヤとして、また、白い穂は野山で遊びながらけがをした時などに血止めに使った。根や茎をしゃぶると甘味
9 カタバミ(バサナイグラー)	・昼間、開いている葉も夜になると、眠っているように閉じる。		

4 時間配当や授業編成の弾力化及び他教科とのかわり

生活科では本人の気付きを大切に、一人一人の自発性を重んじるために、活動での進展を待ち、適度なところで教師が指導するなりよくやっている児童をモデルにしたりする。また、体験活動である以上、個人によるペースや技量の違いが生じるのは当然である。だから柔軟な時間の組み合わせが求められるのである。したがって、単位時間の弾力的運用は、活動の性質、目的などをよく考慮して行なうべきである。

単元の計画の段階である程度の見通しを立て、時間をあらかじめ割り振っておき、その上で活動の進行状況やその時々周りの事情によって、随時に計画を変更することが認められなければならない。それから、作文などの表現活動、造形などの制作活動も重視されている。また、それらは、国語、図工で中心的に扱われていることである。したがって、特に国語や図工との間において有効な関連を図るべきである。生活科のその種の活動で基礎技能の習得を国語なり、図工なりの専門教科で進めておき生活科では、その成果のうえで更に自発的な活動へと注ぐことができるようにし、その逆に生活科で不十分であっても、いろいろな技能を導入して専門教科で習熟するように指導することも可能である。

5 他学年とのかわり

生活科と中学年、高学年への接続を考えると、単に社会科や理科などと、内容的、方法的にどのようにつながるのかなどの見地からだけでなく、広い視野から検討されなくてはならない。

具体的な体験や活動はできるだけ多く取り入れ、子どもの学習意欲を導き出すことでより学習の楽しさを実感し、さらに考えたり、気付いたり、表現したりすることによって日常生活の中から知的意欲が高まるであろう。そして、さらに再体験させる生活の中に知的課題を発見させる試み、あるいはその積み重ねがなされていくことであろう。

それはまさに、子どもたちの身近な社会的事象や自然の事物、現象から学んでいく社会科、理科などの本来的な学習の姿であり、その基盤となるものはあくまでも、子どもの生活のあらゆる場面と結びついた社会的な様々な事象や自然科学的な事実でなければならない。

(1) 3学年の社会科の内容とのかわり

指導要領の内容の(1)「自分たちの地域の人々が、公民館、図書館などの公共施設を利用している様子及び、地域の清掃や交通安全などの活動に参加している様子を観察したり調べたりして」・・・と示されている。これらは、生活科第1学年の内容(3)「近所の公園の公共施設は・・・」第2学年の内容(2)「乗り物や公共物の働き」で示されたことの具体的な学習活動や学習体験、すなわち、生活科で扱った様々な実際体験を社会科の実証的な学習に活用させる。そうした学習内容や方法が中、高学年へも関連し発展的に学習が進められるように図ることが必要である。

(2) 理科の内容とのかわり

生活科では自然を愛し、動植物を飼ったり育てたりするなど直接触れる体験的な学習が進められる。第3学年の理科の内容「A (1) . (2) . B. C」を含めて観察実験、制作など事物や事象に即した学習を重視している。

生活科との接続では、生活科で取り扱う植物の扱い方から、生物学的に細かく見ることができ、自然への客観視の目の育成に力を入れて、例えば、身近に見られる植物や動物を探したり育てたりする活動を通して、動物の体の作りや成長のきまりについて見方、考え方を養い、生物を愛護する態度をそだてるようにする。

6 幼稚園との連携の仕方

幼稚園と小学校では学習形態にかなり大きな段差があり、入学当初、学校になじめない子どももいる。幼稚園と小学校の学習生活の大きな段差は、子どもの心身の発達から考えて見るとかなり無理があると言われる。したがって、幼児が幼稚園生活の中で育てた心情、意欲、態度、生活行動などを小学校生活においても十分発揮させ、楽しく充実した学校生活が送れるようにすることが大切であり、小学校でも幼稚園の教育内容を有効に生かした指導の工夫が必要である。そのためにも幼稚園と小学校それぞれの独自性と連続性について教師同志が相互に理解し合う場や機会を意図的に設けることが大切である。

例えば

- (1) お互いに、保育参観、授業参観を交換し合い協議会の場を設けて、お互いの教育課程や教育内容についての理解を深める。
 - (2) 指導法についての校内研修会に参加し合う。
 - (3) 幼稚園、小学校合同の行事をもつ。
 - (4) 幼稚園、小学校共通のテーマの研究を推進する。
- 等、教師同志の連携の工夫をして相互理解に努めることが大切である。

●生活科と幼稚園教育要領との関連

(「生活科授業の考え方・進め方」から引用)

<生活科設定の趣旨>	<幼稚園の教育内容改善の視点>
(1) 低学年児童には具体的な操作と思考が分化していないことに発達上の長が見られるので、そのことを重視し、具体的な活動や体験を通して、意欲的に学習させるようにする。	(1) 人とのかかわりをもつ力を育成すること、——核家族化、少子化により幼児が触れ合う機会が少なく、とくに同年齢層とのかかわる機会も減少している現状から幼児相互に交わり合い、共感し合い、共に楽しむ体験を十分得られるようにすることを重視したもの。
(2) 児童を取り巻く社会環境や自然環境を自らもそれらを構成するものとして、一体的にとらえ、またそこに生活しているという立場から、それらに関心をもち自分自身や自分の生活について考えさせるようにする。	(2) 自然との触れ合いや身近な環境とのかかわり合いを深めること——身近な環境との触れ合う機会の減少から、幼児が身近な事象や生き物や自然の素材と十分かかわって直接体験が得られるよ
(3) 社会、自然及び自分自身にかかわる学	

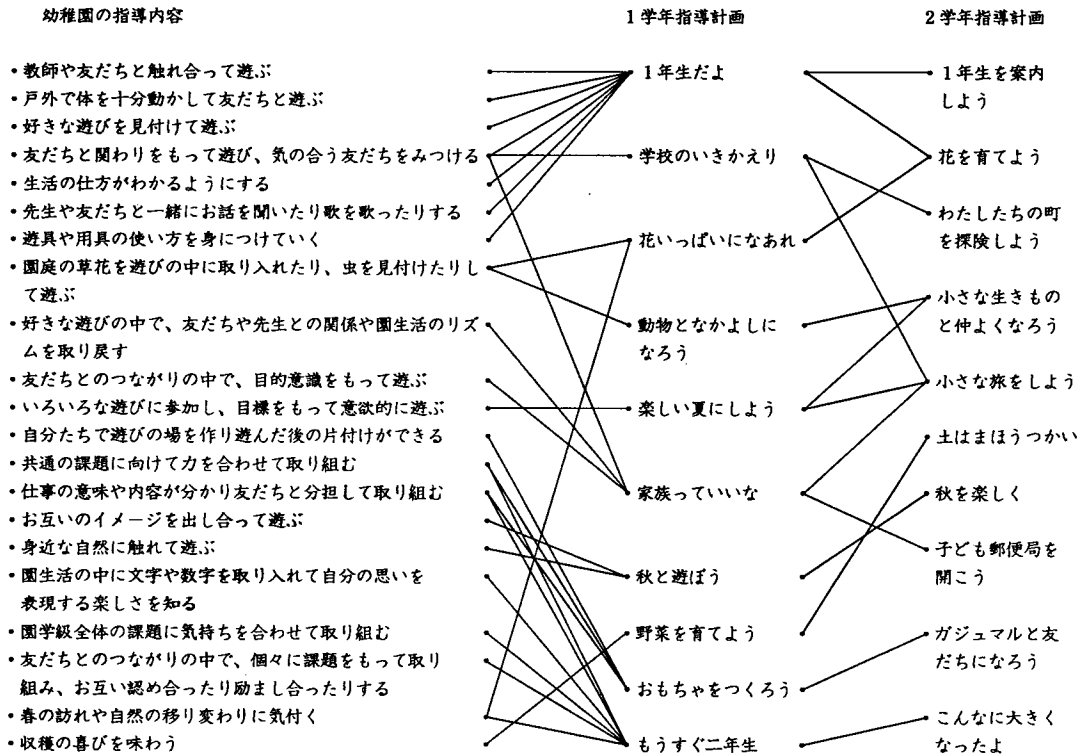
習の過程において、生活上必要な習慣や技能を身につけさせるようにする。

(4) 上記の(1)(2)及び(3)は、学習や生活の基盤的な能力や態度の育成を目指すものであり、それらを通じて生活自立への基礎を養うこととする。

うにすることを重視したもの。

(3) 基本的な習慣や態度を育成すること、
——生涯にわたって健康な生活を営む
基盤となる基本的な生活習慣・態度を幼児期に身につけるよう生活の中で自発的な活動を通して育成することを重視したもの。

●生活科の年間指導計画と幼稚園の指導内容との関連



7 実態調査及び考察

生活科の学習内容は「自分自身」と「身近な社会、自然」であり、地域の素材を教材化するためには、地域の事柄と子どもがどうかかわっているかの実態を把握することが必要である。そのために、子どもの社会体験、自然体験、遊びの体験などの実態を把握して、特性を理解し、また、個々を生かすための授業の手立てとして、一人一人の子どもがその子らしさを十分に発揮して活動し、その子の世界を広げていくようにしなければならない。そのためには、「生活の様子調べ」などをして、一人一人の人間理解を深めていく必要があると考えて次の「実態調査」や「生活の様子調べ」をした。

● 実態調査

(1) 社会体験

① 次のことをしたことがありますか。

- ・家でふき掃除をする
- ・ほうきを使って掃除をする
- ・ガスコンロに火をつける
- ・リンゴの皮をむく

② 次のことをしたことがありますか。

- ・頼まれて買い物に行く
- ・一人でバスに乗ってどこかへ行く
- ・家の人と離れて泊まる
- ・手紙やハガキを書く

③ 次のことをしたことがありますか。

- ・近所の人に挨拶をする
- ・乗り物で席をゆずる
- ・道路や公園の掃除
- ・子ども会や地区の運動会に行く

④ 次のことが一人でできますか。

- ・爪を切る
- ・髪を洗う
- ・ちょうちょ結び
- ・ナイフで鉛筆を削る

⑤ 学校の近くで次の場所を知っていますか。

- ・嘉数高台公園
- ・市民図書館
- ・公民館
- ・郵便局
- ・交番
- ・嘉数中学校
- ・佐真下公園
- ・我如古公園

(2) 自然体験

① 捕まえたことのあるものはどれですか。

- ・ダンゴムシ
- ・コオロギ
- ・カエル
- ・バッタ
- ・アトムシ
- ・セミ

② 家で飼っている生き物はどれですか。

- ・キンギョ
- ・ウサギ
- ・カブトムシ
- ・犬
- ・カタツムリ
- ・ザリガニ
- ・コトリ
- ・猫

③ 次のことをしたことがありますか。

- ・球根を植えた
- ・種まきをした
- ・自分で取った種を次の年まいた
- ・アサガオの種とり

④ 育てたことのある野菜はどれですか。

- ・トマト
- ・ねぎ
- ・サラダナ
- ・玉ねぎ
- ・ジャガイモ
- ・カブ
- ・ピーマン
- ・トモロコシ

④ 次のことをしたことがありますか。

- ・花壇などの草取り
- ・草花を取って遊んだ
- ・草花の汁を使って遊んだ
- ・草の上に乗ったり寝転んだり

⑥ 見たことがありますか。

- ・オニタビラコ
- ・タンポポ
- ・シロツメクサ
- ・オオバコ
- ・ムラサキカタバミ
- ・ススキ
- ・エノコログサ
- ・キツネノボタン

⑦ したことがありますか。

- ・エノコログサで虫遊びやくすぐりっこ
- ・木の実でピーピーぶえ作り
- ・ササで舟や人形作り

(3) 遊びの体験

① 遊びは好きですか。

② 昨日、学校から帰って、どのくらい遊びましたか。

③ 家の中と外では、どちらで遊ぶことが多いですか。・・・等

④ 学校から帰ったあと、何人位の友だちと遊びますか。

⑤ 学校から帰ったあと、どんな場所で遊ぶことが多いですか。

⑥ 学校から帰ったあと、どんな遊びをしますか。・・・等

(4) 生活の様子調べ

① 外から帰った時、うがいや手洗いをしますか。
 ・朝ご飯は必ず食べますか。
 ・危ない遊びはやらないようにしていますか。
 ・大きな通りを渡る時、横断歩道や歩道橋を通るようにしていますか。・・・等

② 家の人や先生と、丁寧な言葉でお話をしていますか。
 ・友だちの話を最後まで聞いていますか。
 ・お客さんにきちんと挨拶したり、お話ししたりしていますか。・・・等

③ 公園にある遊具などを、大切に使っていますか。
 ・ゴミは、ゴミ箱にきちんと捨てますか。
 ・バスに乗る時、自分で整理券を取ったり、お金を払ったりしたことがありますか。・・・等

④ 自分の持ち物に、名前を書いていますか。
 ・物をなくしたら、探しますか。
 ・買物を頼まれた時、間違えずに買って来ることができますか。・・・等

⑤ 自分の言いたいことを、相手に分かるように言えますか。
 ・先生に言われたことを、わすれずに家の人に話していますか。
 ・自分で電話をかけた、受けたことがありますか。・・・等

⑥ 空き箱や紙コップ等を使って、遊ぶ物を作ったり遊んだりしたことがありますか。
 ・みんなで何かを作る時、自分にまかされた事を最後まで作っていますか。
 ・これから「こうしたい」「こうなりたい」と思うことがありますか。・・・等

⑦ 折紙をきちんと折ることができますか。
 ・毎日、教科書やノートは自分で調べてランドセルの中に用意していますか。
 ・使ったものは、元の場所にきちんと返しますか。
 ・友だちと仲良く遊べますか。・・・等

※ 考察

上記の調査結果から、比較的になんて自然体験は多いが、身近な体験を有効に活用して遊ぶ機会は少ない反面、家の中でゲームやファミコンをしたり、マンガを読んだりして過ごす子が多い傾向があると思われる。したがって、身近にあって親しみやすい自然物と直接触れ合う“原体験”をさせたり、自然物を活用して自由に工夫して創造したりする機会の場を設定することが必要であると考えられる。また、「生活の様子調べ」の結果を、一人一人の人間理解を深めるための資料に活用していきたい。

9 年間指導（活動）計画

(1) 1学年指導（活動）計画

月	単元	一 学 期	月	単元	二 学 期	月	単元	三 学 期
四月	⑫	一年生だよ	九月	⑬	たのしかった夏休みの発表をしよう。	一月	⑩	おもちゃ作り
		④						
五月	⑬	学校のいきかえり	十月	⑭	家族の紹介をしよう。	二月	⑪	おもちゃ作りの紹介と遊び
		③						
四月	⑮	花いっぱいになあれ	十月	⑯	家族の紹介をしよう。	二月	⑫	1年間を思い出してみよう。
		②						
五月	⑯	うさぎやにわとりと遊ぼう	十一月	⑰	公園の探検をしよう。	三月	⑬	カレンダー作りをしよう。
		③						
六月	⑰	かたつむりを見つけよう	十一月	⑱	野菜をそだてよう。	三月	⑭	幼稚園生をお招きする会をしよう。
		①						
六月	⑱	かたつむりと遊んだよ	十二月	⑲	おせわをしよう。	三月	⑮	6年生にお礼をしよう
		①						
六月	⑲	かたつむりをかおう	十二月	⑳	取り入れをしよう。	三月	⑯	新しい1年生にしてあげたいことを考えよう。
		①						
九月	⑳	かたつむりさんありがとう	十二月	㉑	おもちゃ作りの計画をしよう	三月	⑰	
		④						

(2) 2 学年指導 (活動) 計画

月	単元	一 学 期	月	単元	二 学 期	月	単元	三 学 期	
四 月	花を育てよう④⑦⑧	・自然の様子を見に行こう ①	九 月	小さな旅をしよう⑤	・発表の計画を立てよう ③	一 月	ガジュマルと友だちになろう⑥	・ガジュマルの木と友だちになろう ①	
		・育てたい花をきめよう ①			・一人旅の発表をしよう ②			・ガジュマルさちを作ろう ③	
		・花を育てよう ②			・自然の様子を見に行こう ②			・ガジュマルさちで遊ぼう ②	
五 月	一年生を案内しよう⑥	・お世話日記を書こう(国1) ①	十 月	土はまほうつかい⑨	・ジャガイモの家を作ろう ②	二 月	土はまほうつかい⑧	・ジュマルさんを紹介しよう(国語1) ⑥	
		・種とりをしよう(算1)(7月) ①			・ジャガイモを植えよう ②			・取り入れパーティーをしよう⑥	
		・案内の仕方を考えよう ①			・芽が出たジャガイモさん ②			・まどめをしよう ②	
六 月	わたしたちの町をたんけんしよう⑩	・名刺や名ふだを作ろう ②	十一 月	⑨	・お世話日記を書こう ①	三 月	こんなに大きくなったよ⑬	・生活カルタを作ろう ④	
		・「はじめましての会」の計画を立てよう ①			・大きくなったジャガイモさん ①			・わたしのアルバムを作ろう⑤	
		・「はじめましての会」をしよう①			・取り入れパーティーをしよう(3学期) ①			・もうすぐ三年生 ④	
七 月	小さな生き物と仲よくなろう⑧	・仲よくたんけんしよう ①	十二 月	秋を楽しく⑭	・まどめをしよう	三 月	⑬		
		・散歩の計画を立てよう I ③			・秋を見つけよう ②				
		・町へ散歩に行こう I ②			・秋を見つける計画を立てよう ②				
夏 休 み		・気付いたことを発表しよう ②			・秋祭りをしよう ⑩				
		・散歩の計画を立てよう II ②			・手紙あつめをしよう ②				
		・散歩に行こう II(課外)			・郵便局を見学に行こう ③				
	小さな旅をしよう③	・町の建物を作ろう(図2) ②			・子ども郵便局をひらこう ⑥				
		・嘉数小学校マップを作ろう ②			・子ども郵便局をひらこう ⑥				
		・気付いたことを発表しよう ②			・年賀状を書いて投函しよう③				

V 授業実践

生活科学習指導(活動)案

平成6年1月28日(金) 2～4校時

嘉数小学校2年5組 (34人)

指導者 平良俊子

1 単元名 「土は まほうつかい」

2 単元目標

- (1) 土にジャガイモを植えて育てることによって、土は植物の成長と大きくかかわっていることに気付くことができるようにする。
- (2) 土をたがやし汗を流すことによって、働く喜び、植物を育てる喜びや、収穫する楽しさを味わうことができるようにする。

3 単元について

学校の周辺は商店や住宅が多く、実際に農業に従事している家庭は少ない。したがって、子どもたち自身農作物栽培に対する知識や体験が十分とは言えない実状である。それでも、子どもたちは、これまでにアサガオ、チュウリップ、ヒマワリ、野菜などを育ててみて、植物が育つには人の手が必要であることに気付き、自分とのかかわりで植物をみつめている。ここではジャガイモは土の上に葉をひろげて大きくなっていくが、土の中で育っているイモについてはその過程が分かりにくい。その見えないイモの成長が土の力であること、それゆえに土づくりが大切であること、また、植物への働きかけが植物を大きく育てることに気付き土づくりから始め、種イモの植えつけ、芽かき、ばい土、収穫までの一連の活動を通して植物の成長する過程で発見、おどろきなどいろいろな体験をしたり、問題点や疑問点に気付くであろう。

子どもたちだけの思考錯誤や工夫だけでは解決できない問題は、畑の先生にたずねたりして世話の仕方を知ろうとする積極的な態度を育てたい。

4 教材の選定にあたって

- (1) 内容(指導内容5)

野外の自然を観察したり、動植物の飼育、栽培を通してそれらの変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは自分たちと同じように成長していることに気付き、自然や生きものへの親しみを持ち、それらを大切にすることができるようにする。

とされている。ここでは、栽培活動を通して児童自ら継続して栽培できるようにしていくこと。そして、その過程で植物に対する親しみを深めるとともに変化や成長の様子に気付かせていきたい。

- (2) 視点

本単元は「児童がそこに住む生活者としてかかわれる教材であり、興味、関心をもって継続的、発展的に活動が展開させられ、やり遂げたという成就感を味わうことができるもの」とい

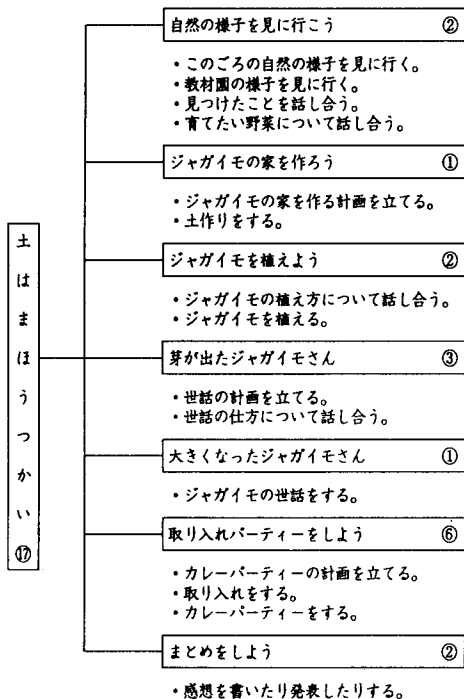
う視点を基に素材の教材化を図ることが必要であると考え。

(3) 教材観

一学期は「花を育てよう」で、ヒマワリの栽培活動を通して植物が成長する過程の発芽から開花、結実までの一連の活動を体験している。ここでは、土の中に成育する作物に焦点を当てることとし、学校環境や児童とのかかわり、季節、栽培期間、継続性や発展性、生活科の趣旨やねらいに基づく指導に適した内容が包含されているか等の面から考慮した。

まず、学校環境の面では、本校（嘉数小学校）は教材園に恵まれていて、一人一人がそれぞれ（1本または1株）自分のものとしてかかわるのに、十分な広さを確保できることである。一人一人が自分で植えてそれとかわりながら他との比較もできる。また、児童とのかかわりの面に目をむけてみると、ジャガイモは「土の中に育つ作物」として多くの児童が認識しており「育ててみたい作物」としても多数の児童がジャガイモ栽培を挙げている。それから、季節や栽培期間の面では、2学期から3学期にかけて、ジャガイモ栽培に適した気候である。栽培期間も3～4ヶ月と継続観察や世話などのかかわりの時間が適当である。栽培方法も比較的簡単であり、土質にそれほど左右されず、病害虫に対しても強い。したがって容易に栽培できて収穫もほぼ確実に期待できる作物で成就感を味わうことができるであろう。また、「取り入れパーティーをしよう」の小単元につながり発展させる際に、子どもたちの食生活の中でもカレーライス、ポテトフライ、マッシュポテトなどと親しみ深い。大人に手伝ってもらって、洗う、皮をむく、切る、煮る、食する等の学習活動を通して生活に必要な習慣や技能を高めるのに適した素材だろうと考える。

5 指導（活動）計画



6 指導要領の視点

(◎・○＝単元にかかわる項目)

視 点	<ul style="list-style-type: none"> ○(1)健康で安全な生活 ○(2)身近な人々との接し方 (3)公共物の利用 ◎(4)生活と消費 (5)情報の伝達 ◎(6)身近な自然との触れ合い ○(7)季節の変化と生活とのかかわり (8)物の制作 ○(9)自分の成長 ○(10)基本的な生活習慣
--------	--

7 単元の指導(活動)計画と評価計画

小単元	小単元のねらい	主な活動と内容	指導上の留意点及び教師の援助	評価の観点	評価の方法	備考
自然の進行の様子を②	家の近くの畑の作物や校庭の様子から、自然の変化に気付くことができる。	1 校庭の草木や教材園の様子について話し合う。 2 何を植えるか話し合っ決めて、農家の畑ではどんな作物を栽培しているか話し合う。 土の上で育てる作物や土の中で成長する作物について話し合う。	・校庭や教材園の様子を実際に見せて気づかせる。 ・季節によって育てる作物が違ってくる。フリヤやピーマンやそのほかの栽培体験等を通して気付かせたい。 (土の中で成長する作物を栽培することを焦点化する)	・自然の変化に気が付くことができる。 (関心・意欲・態度) ・野菜を育てたいという気持ちを持てることができる。 (関心・意欲・態度)	・発表 ・発表 ・観察カード(ワークシート)	教材園 校庭 観察カード (ワークシート)
ジャガイモの育て方を①	ジャガイモがよく育つためには、畑を深く耕しておくことが必要であることに気付くことができる。	1 「ジャガイモの家の家」を作る計画を立てる。 ・草取り ・肥料入れ ・片付け 2 作業を始める。	・グループで分担し合っってみんなで協力し取り組めるような計画を立てさせる。 ・へらやスコップ等の扱い方に注意させながら復らせる。	・野菜を育てることについて作業の場所・道具・作業の仕方など話し合っ、その仕方が分かること(思い・意欲・態度)が分かる。 (関心・意欲・態度)	・発表 ・行動観察	教材園 へら スコップ 移植ゴテ ハケ ジョロ ジヨミ袋
ジャガイモを植えよう②	土に種いもを植えて育てることによって、土は植物の成長に大きくかかわっていることに気がつくことができる。	1 ジャガイモの植え方について話し合う。 ・種いもを適当な大きさに切る。 ・切り口を20～30cm位の間隔で植える。 ・順番を守って植える。 2 ジャガイモを植える。 ・種いもを洗う。 ・植えつけをする。 ・名札を立てる。 3 後片付け 土を落とす きれいに片付ける。 手を洗う。 4 観察カードに記録する。	・一人に1～2個ずつ植えることを知らせる。 ・ある所を植えて切ることを知らせる。 ・底が浅いときは前もって切り口をよやくかわかしておくようにさせる(腐れ防止)。 ・話し合ったことをもとに植えつけさせる。 ・よく見えるように名札を立てさせる。 ・早く芽が出るように言葉かけをさせる。 ・後片付けは、きちんと最後までさせる。 ・記録することの大切さを知り喜んで記録することができるようにさせる。	・今までの経験を基に、土の性質や種いもを植えることについて話し合っ、その仕方が分かること(思い・意欲・態度)が分かる。 (関心・意欲・態度) ・種いもを植えること(思い・意欲・態度)が分かる。 (関心・意欲・態度) ・種いもを植えること(思い・意欲・態度)が分かる。 (関心・意欲・態度) ・種いもを植えること(思い・意欲・態度)が分かる。 (関心・意欲・態度) ・種いもを植えること(思い・意欲・態度)が分かる。 (関心・意欲・態度)	・発表 ・行動観察 ・行動観察 ・観察カード ・行動観察 ・観察カード ・発表	切る用具 種いも スコップ 移植ゴテ 名札 観察カード
芽が出たジャガイモさん②	ジャガイモがよく育つためには、芽かきや水かけ、草取りなどの作業が必要だということに気がつくことができる。	1 世話の計画を立てる。 ・ばい土 ・芽かき ・草取り ・水かけ 2 世話の仕方について話し合う。 芽かきの仕方 丈夫な芽を残し、細かい小さな芽をかきとる。 ・肥料を入れる土をよせる(ばい土)。 作業をする。 3 後片付けをする。 4 手を洗う。 5 世話日記を書く。	・花や野菜にも命があることに気付かせる。 ・2～3本くらい残し、細かい小さいものを芽かきすることを知らせる。 ・2～3回ばい土することを知らせる。 ・進んで世話することを知らせるように指導する。 ・記録することの大切さを知り、喜んで記録することができるように指導する。	・育つていく様子や種いもを植えることについて話し合っ、その仕方が分かること(思い・意欲・態度)が分かる。 (関心・意欲・態度) ・種いもを植えること(思い・意欲・態度)が分かる。 (関心・意欲・態度) ・種いもを植えること(思い・意欲・態度)が分かる。 (関心・意欲・態度) ・種いもを植えること(思い・意欲・態度)が分かる。 (関心・意欲・態度) ・種いもを植えること(思い・意欲・態度)が分かる。 (関心・意欲・態度) ・種いもを植えること(思い・意欲・態度)が分かる。 (関心・意欲・態度)	・発表 ・発表 ・行動観察 ・行動観察 ・観察カード ・発表	教室 観察カード ばい土 芽かき の資料 教材園 肥料 移植ゴテ バケツ

8 本時の展開 (4・5・6/6)

(1) 小単元名 「取り入れパーティーをしよう」

(2) ねらい

- ① 安全に気を付け、みんなと協力して楽しいカレー作りをすることができる。
- ② カレー作りの活動を通して、生活に必要な習慣や技能を高める。
- ③ 植物を育てる喜び・収穫する楽しさを味わうとともに、食物を粗末に扱わないことや物の大切さに気付くことができる。

(3) 児童の実態

食事作りの手伝いは、ほとんどの児童が体験している。その内容は、ガスコンロに点火ジャガイモや人参の皮むき、包丁で野菜を切る等である。しかし、「包丁を使って肉を切ったことがある」と答えた児童は少ない。

また、調理に必要な用具や用語については、鍋、包丁、まな板、ボール等や、煮る、炒める、焼く、混ぜる等は、ほとんどの児童が知っているが、バットやしゃくし、さいばし、水を切る、水にさらす等の用具や用語はあまり知られてないようである。

(4) 準備

① 児童・材料 (ジャガイモ・人参・玉ねぎ・)

用具 (皮むき器・鍋・まな板・ボール・バット・水切りカゴ・しゃくし
さいばし・皿・布巾) エプロン・頭巾

② 教師・材料 (肉・バター・カレールウ)・用具 (包丁・ガスコンロ) 救急箱

(5) 展開

過程	主な活動と内容	指導上の留意点及び教師の援助	評価の観点及び方法
め あ て を も つ	<p>1 めあての確認をする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">安全に気をつけて、カレー作りをしよう。</p> <p>2 一日先生を紹介する。</p> <p>3 身仕度をする。</p> <p>4 材料や用具の確認をする。</p> <p>5 作り方を確認する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">カレーの作り方</p> <p>①肉や野菜を切る</p> <p style="padding-left: 20px;">・ジャガイモを切る。 ・人参を切る。 ・玉ねぎを切る。</p> <p style="padding-left: 20px;">・肉を切る。</p> <p>②バターで炒める。</p> <p>③水を入れて煮る。</p> <p>④カレールウを入れて煮込む。</p>	<p>・予め、補助のお母さんをお願いしておく。</p> <p>・前もって爪を切らせておく。</p> <p>・係を決めておく。</p> <p>・作り方の順序を提示する。</p>	<p>・材料や用具の準備ができる (関・意・態)</p> <p>〈行動観察〉</p>

お こ な う	<p>6 カレー作りをする。</p> <p>①野菜の皮をむき洗う。 ②肉や野菜を切る。</p> <p>③バターで炒める。 ④水を入れて煮る。 (時々かき混ぜる)</p> <p>⑤使い終わった用具の片付けをする。 ⑥カレールウを入れる。 (時々かき混ぜる)</p> <p>7 試食会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カレーちゃんの歌」を歌う。 ・試食する。 ・一日先生にお礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気を付けて、用具が適切に使えるように支援する。 ※危険なので補助のお母さんに支援してもらう。 ・ジャガイモは水にさらす。 ・人参はうすく切る。 ・肉は切りにくいので、包丁の使い方に注意させる。 ・友だちの話を聞いたり、進んで取り組めたりするように役割を決めておく。 ・火や熱湯に注意させる。 ・必要な分量の水を入れて煮る。 ・鍋の中で煮られる様子を観察させる。 ・包丁やまな板、ボールなど使用済の用具を洗って片付ける。 ・具がやわらかくなったことを確かめて、カレールウを割って入れる。 ・歌を歌わせて雰囲気盛り上げる。 ・楽しくいただく。 ・心をこめてお礼をすることができるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと協力してカレー作りができる。 (関・意・態) 〈行動観察〉 ・物の大切さに気づく。 (気付き) 〈行動観察〉 ・グループで協力して片付けができる。 (関・意・態) 〈行動観察〉 ・友だちと進んでパーティーに参加できる。 (関・意・態) 〈行動観察〉
本 時 の ま と め	<p>8 感想を発表する。</p> <p>--- 予想される児童の反応 ---</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで作ったカレーはとてもおいしかった。 ・カレー作りはとても楽しかった。 ・家でも作ってみたい。 ・玉ねぎを切る時涙が出た。 ・肉は切りにくかったが頑張って切った。 <p>9 後片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理は危険が伴うので家族と一緒にするように心がけさせる。 ・グループで協力して最後まできちんと後片付けができるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して後片付けをすることができる。 (関・意・態) 〈行動観察〉
単 元 の ま と め ②	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を書いたり発表したりする。 ・植物の成長に大きく関わりのある土の働きについて話しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモを育てた喜びやパーティーで楽しかった感想をまとめて発表させる。 ・大きな花を咲かせたり、ジャガイモを実らせたりする土の働きの不思議さについて感想を話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育てた喜びを工夫して絵や文などで表すことができる。(思・表) ・自分の考えを発表できる。 (気付き)

9 授業を終えて

この単元は、「身近な地域素材の教材化」ということで土づくりから始め、種イモの植えつけ芽かき、ばい土、収穫までの一連の活動を通して、児童が興味、関心をもって取り組み、また、体験活動による気づきや工夫が生み出されるかとういこと等を考慮し、授業実践に臨んだ。

その結果

(1) 児童が興味、関心をもって取り組んだ。

- ・ジャガイモを育てて楽しかった。（自己評価から）
- ・カレーパーティーをして、とても楽しかった。（自己評価から）
- ・「早く大きくなってね」とか「大きなジャガイモを実らせてね」などと声かけをした。
- ・収穫のとき、思ったよりも大きなジャガイモが11個もとれたのでうれしかった。
などの声があった。

(2) 身近にあって、子どもたちとのかかわりも大きい。

- ・「土の中で成長する作物」として、多くの子どもが認識している。また、「育ててみたい作物」としてもジャイモ栽培を挙げている子が多い。

(3) 体験による気づき、工夫が見いだせる。

- ・作業用具が上手に使えるようになった。
- ・観察記録がちゃんとできた。
- ・水やり、草とり、ばい土、芽かき等の世話の仕方が分かった。
- ・みんなと力を合わせて、カレー作りができた。
- ・包丁の使い方の上手な友だちの影響で、周りの子どもも上手に切ることができた。
- ・肉を切っている友だちに「のこぎりみたいに引いて切るんだよ」等と教え合いながら進めた。
- ・ガスコンロへの点火がうまくいかない。そのうちに元栓に気づき、点火に成功した時うれしかった。……等

以上のようなことなどから、児童が自分とのかかわりで、主体的な活動が見られたように思う。

VI まとめと今後の課題

直接的体験や具体的な活動を通して学習することが重視されている生活科では、学習素材を児童の身近な環境から見だして教材化し、活用していかなければならない。それで、身近な地域素材の教材化に視点をおき、理論・実践を通して研究してきた。その中で、地域素材の教材化を図る手立てが自分なりに理解できたことによって、地域素材の教材化を試みることができた。その結果、児童が自分とのかかわりのなかで、興味、関心をもって主体的に学習に取り組むことができたように思う。

地域素材の教材化を図り活用していくときの方策として「仮説（見通し）→ 実践 → 評価 → 仮説の修正」のサイクルを常に心掛けて、教材と子どもの出会いの場を大切にし、児童の学習圏内に存在する多様な素材の教材化をより確かなものにするために研さんを重ねていきたい。

今後の課題としては、新しい素材の教材開発、資料収集、生活科学習における地域への働きかけの工夫や課外学習での安全面の指導の徹底とその工夫等。また、子どもの発達を見据えて主体的な活動を生みだしていくよう、幼、小の連携の強化を図り、年間指導計画に位置づけたい。

最後に研修の機会を与えてくださいました宜野湾市立教育研究所と、ご指導頂きました宜野湾市教育委員会の先生方、指導主事の先生方に厚くお礼申し上げます。

〈 主な参考文献 〉

熱海則夫 監修	小学校新教育課程展開の研究 主題総覧	明治図書	1988年
荒井・藤井編著	生活科単元研究のポイント	ぎょうせい	平成4年
栗山・寺師編著	生活科授業の考え方・進め方	ぎょうせい	平成4年
近藤信司 監修	小学校新学習指導要領と指導の要約	文溪堂	平成2年
中頭地区教育課程 研究委員	小学校教育課程研究報告書(生活科)		平成5年
天笠・永岡編著	生活科と学校の経営	東洋館出版社	平成5年
文部省	小学校指導書教育課程一般編		
直方市教育委員会	教育研究収録 第20集		
直方市教育研究所			
西宮市立総合教育 センター	研究紀要 第28号		平成3年
文部省	幼稚園教育指導書 増補版	フレーベル館	平成元年
宜野湾市立普天満 幼稚園	研究報告書		平成5年
財団法人・日本教 材文化研究財団	調査研究シリーズ22		平成5年
那覇市立城西小学校	研究生報告書		平成元・2年
中野重人 監修	生活科の単元構成と展開	教育同人社	
西原教育委員会	西原町研究報告書		